

OPTiM Biz ver.10.3.0 バージョンアップ°説明資料

株式会社オプティム

バージョン	更新日	更新内容
1.0	2025/9/19	初版を掲載しました。
1.1	2025/9/22	・ P11 「iOS/iPadOS 26最適化」 iOS / iPadOS 14 以下のサポートステータスを修正
1.2	2025/9/24	・ P12 「iOS/iPadOS 26最適化」 プリインストールアプリのアプリケーションID一覧を最新の情報に更新 を追加 ・ P30 「macOS 26最適化」 のOS情報を修正 ・ その他軽微な修正

目次

1. [本資料の目的](#)
2. [バージョンアップ日程](#)
3. [対応内容一覧](#)
4. [アップデート対象のアプリ一覧](#)
5. [管理サイト](#)
6. [iOS/iPadOS](#)
7. [Android](#)
8. [Windows](#)
9. [macOS](#)
10. [その他 対応内容](#)
11. [アップデート後の作業](#)

- 本資料は、OPTiM Bizのバージョンアップ実施に伴う変更点を、ご利用者もしくはパートナーの皆様が、ご理解いただくことを目的としたものです。
- 変更点は、新機能追加、既存機能拡充、仕様変更を主に含みます。
- 本資料読了後、「この変更点はなぜあるのか、目的はなにか、どのようなユースケースを想定するか」等が分かることを重視して記載をします。

□ バージョンアップ日程

- 対象：管理サイト
2025年10月19日(日)10:00-18:00の間
- 上記時刻の間でメンテナンスのため、5時間程度、管理画面の表示および機器の同期ができなくなります。
- また上記時間中に管理サイトへのアクセスがあった場合「メンテナンス中もしくは回線混雑によりただいまアクセスできなくなっております。」のメッセージが表示されます。

管理サイト 機能一覧	
不具合修正	機器CSV編集でのVPN設定のエラーメッセージ修正

iOS/iPadOS 機能一覧	
OSサポート	iOS/iPadOS 26最適化
新規機能追加	Apple Push証明書を削除・変更した際に出力されるログ情報を強化
不具合改修	iOSエージェントの位置情報取得方法の改善
仕様変更	iPadOSのアプリカタログのウィンドウサイズ変更対応

Android 機能一覧	
OSサポート	Android 16最適化
既存機能拡充	「高度な保護機能」の有効/無効状況を管理サイトに表示
不具合改修	Google Play ストアのキャッシュ削除実行時発生するエラーの改修
仕様変更	Android 16以上の権限要求一覧画面の文言を一部変更
仕様変更	管理サイト「エージェント共通管理」内の文言変更

Android 機能一覧	
仕様変更	Android キットニングマニュアルの記載変更

Windows 機能一覧	
OSサポート	Windows 10サポート終了対応
既存機能拡充	エージェントクラッシュ情報取得のためのログ出力

macOS 機能一覧	
OSサポート	macOS 26対応
仕様変更	macOSエージェントの情報画面に表示されているハッシュ値を削除する

その他 対応内容	
不具合修正	Optimal Biz Browser(iOS) 起動時の画面に表示されるアプリ名を修正
仕様変更	Optimal Biz Browser(iOS)の位置情報許諾ダイアログの文言追加

アップデート対象のアプリ一覧

- バージョンアップ内容をご利用のお客様は、該当のアプリをアップデートしてください。

OS	対象アプリ	バージョン
iOS/iPadOS	iOS/iPadOSエージェント	10.3
	Optimal Biz Browser	2.12.0
	Optimal Biz App Catalog	2.14.0
	Optimal Biz Docs	1.10.0
Android	ストア版Androidエージェント	10.3
Windows	Windows エージェント	10.3
macOS	macOSエージェント	10.3

管理サイト

サブタイトルの補足

□ 概要

- 機器の「CSVで追加」および「CSVで編集」のVPN設定にて、特定の場合に表示されるエラーメッセージを修正します。

□ 内容

- 機器 > CSVで追加 および CSVで編集 におけるVPN設定において、以下の「ON」または空白で指定する箇所にそれら以外を入力してアップロードした際に表示されるエラーメッセージを修正します。

◆ 接続のタイプがL2TPの場合

- トークンカードの使用

◆ 接続のタイプがIPSec/Cisco Legacy AnyConnect/Juniper SSLのいずれかの場合

- VPN経由のルートをローカルのルートより優先する
- APNsネットワークトラフィックをトンネルから除外する
- セルラーサービスのネットワークトラフィックをトンネルから除外する
- すべてのローカルネットワークトラフィックをVPN以外のルートにルーティングする
- すべてのトラフィックをVPN経由のルートにルーティングする

 データにエラーが見つかりました。エラーのある行を確認してください。

全1件 / [エラー1件](#)

コファイル	備考
	 VPN経由のルートをローカルのルートより優先するは「ON」または空欄を入力してください。
	 APNsネットワークトラフィックをトンネルから除外するは「ON」または空欄を入力してください。
	 セルラーサービスのネットワークトラフィックをトンネルから除外するは「ON」または空欄を入力してください。
	 すべてのローカルネットワークトラフィックをVPN以外のルートにルーティングするは「ON」または空欄を入力してください。
	 すべてのトラフィックをVPN経由のルートにルーティングするは「ON」または空欄を入力してください。

上記内容を確認してCSVファイルを修正し、再度アップロードしてください。

選択されていません

iOS/iPadOS

サブタイトルの補足

□ iOS/iPadOS 26 は9月16日よりサポートを開始いたしました。
以下のアプリのサポート範囲は表のように変更になります。

- iOSエージェント
- Optimal Biz Browser (iOS)
- Optimal Biz App Catalog (iOS)
- Optimal Biz Docs (iOS)

対象バージョン	サポートステータス
iOS / iPadOS 26 iOS / iPadOS 18-16	サポート対象
iOS / iPadOS 15	ベストエフォート対象
iOS / iPadOS 14 以下	保証対象外 (iOS 14 ベストエフォート対応終了)

□ 注意点

- 以下サービスは引き続き確認を行っております。
以下サービスをご利用中のお客様は、iOS/iPadOS 26 へのアップデートをお控えください。
 - ◆ Optimal Biz Web Filtering powered by i-FILTER(iOS/iPadOS)
 - ◆ Optimal Biz Secure Sync(iOS/iPadOS)
 - ◆ Optimal Biz Telework(iOS/iPadOS)
- 前述の各アプリケーションは、端末のOSがiOS/iPadOS 15未満である場合、バージョンアップができなくなります

□ 変更内容

- 設定 > iOS > 構成プロファイル > 構成プロファイルアップロード > Appの制限の画面にある 「※プリインストールアプリのアプリケーションIDはこちら」の一覧を最新の情報に更新します。

□ 以下の不具合を解消します。

■ iOSエージェントのメッセージ表示崩れ

- ◆ 事象内容：iPadでiOSエージェントを起動し、メッセージ画面を表示しているときにウィンドウのサイズを小さくすると、表示崩れが発生する

■ Optimal Biz Browser のボタン不具合

- ◆ 事象内容：iPadでウィンドウの高さを最大にしていない状態で、ブックマークタブの下にあるごみ箱、新規フォルダ作成、新規ブックマーク作成のボタンに以下の不具合が発生する
 - 画面の方向を変えると、上記のボタンが消える
 - 編集ボタンを押したときに、上記のボタンが出てこないことがある

- ◆ 回避手順：ウィンドウの高さを最大にする

■ Optimal Biz Docsのカメラ不具合

- ◆ 事象内容：iPadで横画面の状態でカメラを起動すると、カメラが本体の向き通りの状態で起動しない

□ 制約事項：以下の事象が引き続き発生します。

- 管理サイトから機器 > 詳細 > 操作 > OSアップデート の「OSのダウンロードまたはインストール」または「ダウンロード済みのOSをインストール」からOSアップデートを行おうとすると、管理サイトでの操作が完了しているにもかかわらず、端末に「アップデートをインストールできません」というエラーが表示され、完了できない。

■ 発生条件

- ◆ 端末 > 設定 > 一般 > リリースされている最新のOSをダウンロード済みの状態かつ、パスコードが設定されている端末に対してインストールを行う

■ 発生確認方法

- ◆ 以下のログが出ているにもかかわらずOSバージョンが上がっていない場合は、事象が発生しています。

- ユーザー「【ユーザー名】」が機器「【機器名】」にOSダウンロードまたはインストールを通知しました。
- 機器「【機器名】」にOSダウンロードまたはインストール指示を行います。
- 機器「【機器名】」にOSダウンロードまたはインストール指示を行いました。

- 回避方法・「2.1.発生事象」に該当するお客様は、インストールエラーが発生すると端末に表示されるモーダルで、「再試行」を選択し、端末のパスコードを入力していただくようお願いいたします。以上の操作でインストールが開始します。

Apple Push証明書を削除・変更した際に表示されるログ情報を強化 (1/2)



□ 概要

- Apple Push証明書を削除・変更（更新）した際の管理ログの詳細ボタンから、操作前の証明書情報が確認できます。

□ 内容

- Apple Push証明書を削除・変更（更新）した際に表示される以下の管理ログの詳細ボタンを押すと、削除・変更（更新）前の証明書情報が表示されます。
 - ◆ “ユーザー名”がApple Push証明書を削除しました。
 - ◆ “ユーザー名”がApple Push証明書を変更しました。
- 表示される証明書情報は右のキャプチャの通りです。

□ 効果

- 証明書の年次更新をする際に、証明書を削除してしまっても、証明書のシリアル番号などの情報がわかるようになります。
 - ◆ 削除操作を行う前は、証明書の各情報は、設定 > サービス環境設定 > Apple Push証明書から確認できます。
- 今までは前任管理者の退職などでAppleのサイトにログインできなくなり、証明書を削除し、新規登録すると端末と同期できなくなるケースがありました。
- 本対応後は削除前証明書のシリアル番号などをAppleへの問い合わせの際にお伝えいただくことで、新規証明書を作成したApple IDへの統合や削除前証明書を作成したApple IDの特定ができる場合があります。



□ 注意点

- ログ詳細の内容は、ログの検索ではヒットしません。
- 本機能リリースより前に行ったApple Push証明書の削除・変更（更新）のログには削除・変更（更新）前の証明書情報は出力されません。

□ 概要

- iOSエージェントによる位置情報を取得する方法の改善を行います。

□ 内容

- iOSエージェントのバージョン10.1.0以降、Background Fetchでの位置情報の取得および管理サイトへの送信が行われないことがあったため、10.1.0より前のバージョンと同じ頻度で行われるよう改善します。

□ 注意点

- 本機能における位置情報の取得はOSの判断で行われるため、改修後も測位および送信の実施タイミングは不定期となります。

□ 概要

- iPadOSのアプリカタログにおいて、ウィンドウの幅に応じてアプリの表示列数が変わるよう改修を行います。

□ 内容

- iPadOSにおいて、アプリカタログのウィンドウサイズを変更した際に、ウィンドウの幅に応じてアプリの表示列数が変更するよう改修を行います。

Android

サブタイトルの補足

□ 概要

- AndroidエージェントをAndroid 16に最適化します。

□ 制約事項

- 以下の制約事項が引き続き発生します。
- Android 16の新機能「高度な保護機能」を有効にしている場合、下記の2機能に影響があります。

◆ 提供元不明なアプリのインストール

- 管理サイトのDevice Owner Mode > セキュリティ設定で[提供元不明アプリのインストール]を[許可する]設定にしていた場合でも、提供元不明なアプリのインストール/アップデートができない

※提供元不明アプリをインストールした後「高度な保護機能」を有効にすると、インストール済みのアプリはご利用いただけますが、アップデートが行えません。

◆ アプリ確認の強制

- 管理サイトのDevice Owner Mode > セキュリティ設定で[アプリ確認の強制]を[強制しない]と設定していた場合でも、Google Play プロテクトによるアプリのスキャンはオフにできない

□ 仕様変更

- Android 16以降、端末のセットアップ時の画面遷移に変更があり、一部の画面がキッキング時に表示されなくなりました。

「高度な保護機能」の有効/無効状況を管理サイトに表示

□ 概要

- 「高度な保護機能」の設定状況が管理サイトから確認できるようになります。

□ 内容

- Android 16から追加された「高度な保護機能」について、有効/無効状況を管理サイトのデバイス情報画面に表示します。
- 機器レポートで出力可能な項目に「高度な保護機能」の有効/無効状況を追加します。

□ 諸条件

- Android 15以前の端末および10.2以前のエージェントでは（Unknown）と表示されます。

□ 制約事項（前頁と同内容）

- Android 16の新機能「高度な保護機能」を有効にしている場合、下記の2機能に影響があります。

◆ 提供元不明なアプリのインストール

- 管理サイトのDevice Owner Mode > セキュリティ設定で[提供元不明アプリのインストール]を[許可する]設定にしていた場合でも、提供元不明なアプリのインストール/アップデートができない

※提供元不明アプリをインストールした後「高度な保護機能」を有効にすると、インストール済みのアプリはご利用いただけますが、アップデートが行えません。

◆ アプリ確認の強制

- 管理サイトのDevice Owner Mode > セキュリティ設定で[アプリ確認の強制]を[強制しない]と設定していた場合でも、Google Play プロテクトによるアプリのスキャンはオフにできない

(Unknown)	無効
IPアドレス [Redacted]	常時接続VPN 無効
ネットワーク - wlan0	パッケージ名 (Unknown)
SSID [Redacted]	ファクトリーリセット保護
MACアドレス (Unknown)	状態 有効（端末に登録済みのGoogleアカウントを使用する）
IPアドレス [Redacted]	Googleアカウントのメールアドレス
Bluetooth	高度な保護機能
状態 有効	デバイス保護プラン 無効
グローバルプロキシ	

□ 概要

- 「Google Play ストアのキャッシュ削除」実行時、「Push通知」を「利用しない」設定の場合に、エラーメッセージが表示されない事象を解消します。

□ 内容

- 機器 > 機器詳細 > 操作 > 「Google Play ストアのキャッシュ削除」から削除実行時、「Push通知」を「利用しない」設定のエージェント個別管理を機器に割り当てている場合に、下記のエラーメッセージが表示されない事象を解消します。

◆ 「Push通知を利用しない設定です。」

⊕ Google Play ストアのキャッシュ × 削除

通信日時: 2025/09/09 11:31:06 [同期](#)

❗ Push通知を利用しない設定です。

❗ 本機能はAndroid 9 以上の端末のみ対応しています。

❗ 本操作により、「Google Play ストア」アプリ内で変更したすべての設定が初期値に戻ります。設定を初期値から変更している場合は、本操作終了後に端末から再設定してください。

❗ アプリ配信設定を変更後に本操作を実施すると、端末側に表示されるアプリ配信設定の内容が一時的に変更前の表示になる場合があります。本操作を行うときは注意してください。
端末やインストールされたアプリに影響はありません。

実行

Android 16以上の権限要求一覧画面の文言を一部変更



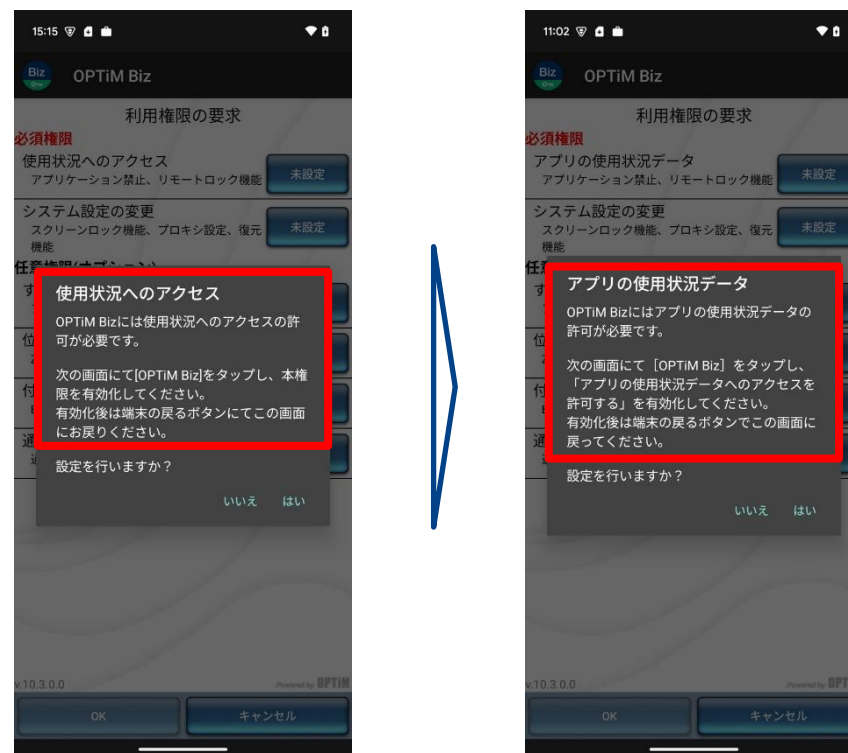
□ 概要

- Android 16以上での権限要求一覧画面の文言を、設定アプリ内の項目名と一致するように変更します。

□ 内容

- Android 16以上の端末における権限要求一覧画面および必須権限が外れた際の通知の文言を、設定アプリ内の項目名と一致させ、[使用状況へのアクセス]から[アプリの使用状況データ]へと変更します。

権限要求一覧画面



管理サイト「エージェント共通管理」内の文言変更



□ 概要

- 管理サイトの「エージェント共通管理」内の文言を実働に沿ったものに変更します。

□ 内容

- 管理サイトの下記画面の「端末でのエージェント停止・ライセンス解除・アンインストールの制限」という項目を「アンインストール」の文言を削除し、「端末でのエージェント停止・ライセンス解除の制限」と変更します。
 - ◆ 設定> Android> 管理アプリの通信と動作 「エージェント共通管理」
 - ◆ サイトマップ> Android> エージェント共通管理

※端末上でエージェントの停止、ライセンスの解除、アンインストールを行う際、パスワードの入力を求める設定にできる機能ですが、現在はアンインストール時にパスワードを求められません。

Android 設定

管理アプリの通信と動作

設定テンプレート

設定バックアップ

セキュリティ

アプリケーション

インターネット

便利機能

エージェント共通管理

管理サーバーとの通信間隔
分数指定: 30分

管理サーバーと通信できなかった場合
なにもしない

ロックメッセージ
(なし)

リモートロックの解除コード
[Redacted]

端末でのエージェント停止・ライセンス解除の制限
[Redacted]

root化状態検知
検知する

編集

□ 概要

- 「OPTiM Biz Android キットニングマニュアル」の一部の記載を見直します。

□ 内容

- プラットフォームの方針変更に伴い、「OPTiM Biz Android キットニングマニュアル」の記載を見直しました。
- 「4 Google アカウントで Android Enterprise 連携を 行い、Google Workspace アカウントを併用する」の章を削除します。

Windows

サブタイトルの補足

□ 以下のOSバージョンについて、2025年10月14日をもってサポートを終了いたします。

- Windows 10 2015 LTSC
- Windows 10 Enterprise and Education Version 22H2
- Windows 10 Home and Pro Version 22H2
- Windows 11 Enterprise and Education Version 22H2

□ 内容

- サポート終了に伴い、管理サイトおよびマニュアル上の文言を変更します。
 - ◆ Windows 10およびその機能に関する記載の削除・変更を行います。
 - 「ブラウザー(Internet Explorer)」を「インターネットオプション」に変更など
 - Wi-Fi設定の「※1 WPA3-PersonalはWindows 10 1909以前の端末には対応していません。」を「※1 WPA3-PersonalはWindows 10以前の端末には対応していません。」に変更など

Windows 10サポート終了対応 (2/2)



※参考：Microsoft社が公開しているWindowsライフサイクルについて

◆ Windows 10 2015 LTSB

- <https://learn.microsoft.com/ja-jp/lifecycle/products/windows-10-2015-ltsb>

◆ Windows 10 Enterprise and Education

- <https://learn.microsoft.com/ja-jp/lifecycle/products/windows-10-enterprise-and-education>

◆ Windows 10 Home and Pro Version

- <https://learn.microsoft.com/ja-jp/lifecycle/products/windows-10-home-and-pro>

◆ Windows 11 Enterprise and Education

- <https://learn.microsoft.com/ja-jp/lifecycle/products/windows-11-enterprise-and-education>

□ 概要

- Windowsエージェントのクラッシュ時に情報取得のためのクラッシュダンプが出力され、ログ共有の手順が効率化されます。

□ 内容

- Windowsエージェントがクラッシュした際に、クラッシュの詳細がクラッシュダンプとして出力されるようになります。

□ 効果

- 今までは、通常のログに加えてクラッシュ時のログを取得するには、クラッシュ発生前に設定を追加する必要がありました。本対応によって、お客様に設定を追加していただく必要がなくなり、手間が少なく当社にクラッシュダンプを共有できるようになりました。
 - ◆ クラッシュダンプが出力された場合、最大で30MB程度のストレージ領域を利用します。
 - ◆ クラッシュダンプについては、問い合わせで利用しない場合は削除して問題ありません。

macOS

サブタイトルの補足

- macOS 26は9月16日よりサポートを開始いたします。
以下のアプリのサポート範囲は表のように変更になります。

■ macOSエージェント

対象バージョン	サポートステータス
macOS 26 macOS 15-13	サポート対象
macOS 12	ベストエフォート対象
macOS 11 以下	保証対象外 (macOS 11 ベストエフォート対応終了)

- macOSエージェントは、端末のOSがmacOS 12未満である場合、バージョンアップができなくなります。



□ 概要

- macOSエージェントの情報画面に表示されるモデル名以下の内部設定値の部分を削除します。

□ 内容

- macOSエージェントの情報画面に表示されるモデル名以下の内部設定値の部分を削除します。

◆ お問い合わせでは使用しておらず、お客様への影響はありません。



その他 対応内容

サブタイトルの補足

□ 概要

- Optimal Biz Browser起動時に表示されるアプリ名に誤記があったため修正します。

□ 内容

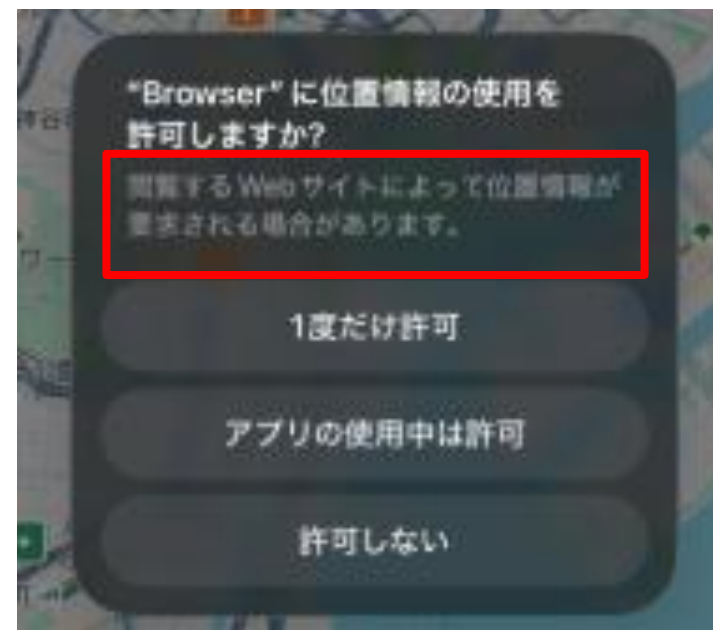
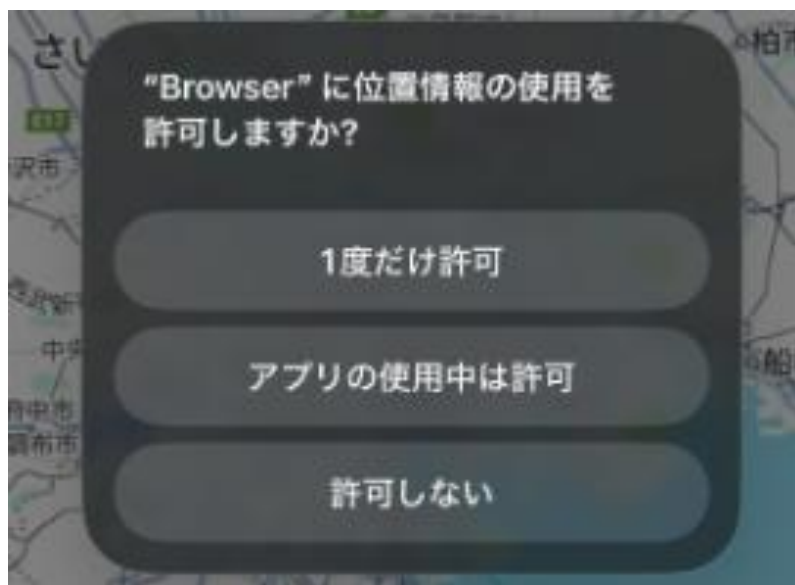
- Optimal Biz Browser起動時に表示される画面でのアプリ名に誤記があったため、正しく表示されるよう修正します。

□ 概要

- 位置情報許諾ダイアログに文言を追加します。

□ 内容

- 位置情報許諾ダイアログの下部に以下の文言を追加します。
 - ◆ 閲覧するWebサイトによって位置情報が要求される場合があります。



本バージョンリリース後の作業

サブタイトルの補足

iOS/iPadOS

構成プロファイルの更新は不要です。関連アプリは、App Storeから新バージョンをインストールしてください。

Android

Androidエージェントおよび関連アプリをユーザーによってGoogle Playより手動でアップデートしていただくか、管理者によりmanaged Google Playを利用し、端末へ配信してください。

managed Google Playをご利用の場合、該当アプリの企業許可操作が必要です。次頁に手順を記載しております。

Android(専用デバイス)で利用しているAndroid Device Policyは自動的にアップデートが行われるため、必要な操作はありません。

Windows

Windowsエージェントは自動更新されるため、アップデート作業は不要です。

※手動更新を行う場合、バージョンアップ後はアップデート要求が集中し、ダウンロードに失敗することがございます。その場合は、再度時間を空けてからお試してください。

macOS

構成プロファイルの更新は不要です。エージェントは、App Storeから新バージョンをインストールしてください。

本バージョンリリース後の作業（managed Google Play）

managed Google Playを利用してAndroidエージェントや関連アプリをアップデートする際は下記の通りです。

□ Google Playより手動でアップデートする場合

- こちらは、管理されているAndroid端末上のGoogle Play Storeから、端末ご利用者様ご本人にて当該アプリを検索し、インストールする方法です。
- 詳細手順はGoogle提供のヘルプが参考になります。
- <https://support.google.com/android/answer/9457058?hl=ja> > 「Google Playからアプリをダウンロードする」

□ managed Google Playを利用して端末へ配信する場合

- こちらは、Android Enterpriseの機能を利用して、管理サイトから端末へアプリを配信する方法です。
- （１）インストール可能なアプリを特に制限しない設定、（２）企業が許可したアプリのみインストール可能になる設定、（３）管理サイトで指定されているアプリのみインストール可能になる設定（※この設定ではサイレントインストール可能）の３種類の設定があります。
- いずれも、管理サイトリファレンスマニュアル 7.5.6 「Android Enterprise／アプリケーション配信」に詳細手順を紹介しております。

□ managed Google Playの承認操作

- こちらは、上記において（２）、（３）の設定を利用するために必要な手順です。
- 詳細な手順は、管理サイトリファレンスマニュアル 7.5.8 「Android Enterprise／企業許可アプリ」をご参照ください。

